

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査書

(1) 取組名	街道を活かした桑折のまちづくり実践調査 ～歩いて楽しむために～		
(2) 実施団体名	桑折地区歩いて楽しめる地域づくり懇談会	(4) 対象地域	福島県伊達郡桑折町全域
(3) 代表団体名		(5) 推薦団体名	福島県東北地方振興局、福島県東北建設事務所、桑折町

(6)実施した取組の内容	取組①	「桑折宿軽トラ市」の実証実験	
	実施主体	主担当: 桑折宿軽トラ市実行委員会	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 運搬が手軽な軽トラックによる市の実証実験及び来訪者等へのアンケート、売れ筋調査の実施 実施時期: 平成20年9月～平成21年2月(毎月第4日曜日) 実施場所: 桑折町字上町地内(福島蚕糸工場長宅跡地) 取組の目的: 中心市街地の賑わい創出、まち中と郊外農村部の交流による経済活性化、地産地消で安全安心な食品の提供・PR、農産物市等の開催による歩行者等の増加を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 来場者や出店者へのアンケートを実施しながらより良い開催に向けた実証実験を実施中。 実施時期: 平成20年9月～平成21年2月(毎月第4日曜日、12月は悪天候により中止) 実施場所: 桑折町字上町地内(福島蚕糸工場長宅跡地) 取組の結果: 定期的な開催により、リピーターが増え始めているなど、徐々に賑わい創出の効果が現れ始めており、購買者の90%は満足しているというアンケート結果が得られた。各回の来場者は平均300人程度。しかし、街なかイメージ調査のアンケート調査からは来場者が6%と低く、多くの来場者を増やすためには、会場を各商店街を回しての開催やイベントに併せての同時開催や継続的な開催に向けての組織づくりの課題が残った。
	取組②	現存日本最古「三元自転車」の復元調査	
	実施主体	三元自転車復元プロジェクトチーム	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 「三元自転車」復元とともに、その歴史的価値を認知・継承するための周知活動に取り組む。 実施時期: 平成20年8月～ 実施場所: トヨタ産業技術記念館、桑折町内(各種イベント等) 取組みの目的: 桑折町にしかない資源である「三元自転車」を活用し、地域の元気を創り出すため、その復元に向けた調査を実施するとともに、「三元自転車」の歴史的価値の素晴らしさを多くの皆さんに認知いただくためのPRを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 「三元自転車」復元とともに、その歴史的価値を認知・継承するための周知活動に取り組む。 実施時期: 平成20年8月～平成21年3月 実施場所: トヨタ産業技術記念館、桑折町内(各種イベント等)、日本大学理工学部 取組みの結果: 三元自転車の形態が複雑で図面化には多大な困難があることが判明し、設計図が本当に作製できるのか不安であったが、日本大学理工学部のご協力をいただき1月中を目途に設計図面が完成した。しかし実際この設計図をもとに試作品が作れるかの問題が生じてきた。また、調査の際に収集した写真をパネル化し、イベントやマスコミ取材活用等で三元自転車PRを実施したため、街なかイメージ調査結果では認知度(70%)は高かった。
	取組③	カフェ図書の実証実験	
	実施主体	主担当: 東北大学 仙台都市デザイン研究会	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 街なかに新たなコミュニティスペースとして、空店舗を活用した「カフェ図書」の設置・運営実験の実施 実施時期: 平成20年10月～平成21年2月(毎週土・日) 実施場所: 桑折町字北町地内 空き店舗 取組の目的: 街なかの賑わい創出、コミュニティの醸成、まちづくりへの意識高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 「カフェ図書」の設置・運営実験の実施 実施時期: 平成20年10月～平成21年2月(毎週土・日) 開店時間10:00～15:00 実施場所: 桑折町字上町地内(福島蚕糸工場長宅跡地) 取組の結果: 店舗内の本は町内外から約3,000冊を提供していただいた。カップ作りなどにおいて地元小学生との協働(ワークショップを4回開催、参加者114名)の成果もあり、新たなコミュニティ空間としての利用がなされている。しかし、週末(土日)限定の開催や開店時間の関係から若者の利用が少ない、また、街道を活かしたまちづくりの考えからは「カフェ図書」という名称は一般町民からは親しみに欠けていた。 	
取組④	お気に入りスポットコンテストの開催		
実施主体	主担当: 東北大学 仙台都市デザイン研究会		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容: お気に入りスポットコンテストの実施 実施時期: 平成20年9月～平成20年11月 実施場所: 桑折町全域 取組の目的: お気に入りの場所の写真コンテストを実施し、町の地域資源を再発見し、このコンテストへの参加により、まちづくり参加への意識高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容: お気に入りスポットコンテストの実施 実施時期: 平成20年9月～平成21年11月 実施場所: 桑折町全域 取組の結果: コンテストには94名の参加があり、これを奥州・羽州街道まつり開催時に町民に投票してもらい(406票)、桑折町のお気に入りの場所を決定した。また、作品を基に、町民に呼びかけ、手づくり年賀状のイラストを作成し、参加者から好評を得た。 	
取組⑤	「羽州街道サミット」の開催		
実施主体	主担当: 桑折町		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 羽州街道サミットの開催 実施時期: 平成20年9月～平成20年11月 実施場所: 桑折町内施設 取組の目的: 羽州街道沿線の市町によるサミットを開催し、他地域との交流を通じて、羽州街道始点の地としてのアイデンティティを確認する機会を創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 羽州街道サミットの開催 実施時期: 平成20年10月18日(土)～19日(日) 実施場所: 桑折町地域交流センター外 取組の結果: 羽州街道沿線の32自治体のうち14自治体からの参加、町内外から約250名の一般参加を得て町地域交流センターにて10月18日(土)に開催した。参加自治体からは、地域連携の必要性についての意見が出され、参加自治体による継続開催が確認され「羽州街道サミット宣言」が採択された。しかし、継続的に開催するための組織づくりの検討課題が残った。翌日は桑折街なかや奥州街道・羽州街道追分、小坂峠等を巡る羽州街道探訪会を実施した。 	

	取組⑥	屋号、標柱、黒塀設置等によるまちづくり調査
	実施主体	主担当: 桑折町
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画 ・実施内容: 屋号や標柱、黒塀の設置によるまちづくり事例調査等 ・実施時期: 平成20年8月～平成21年3月 ・実施場所: 桑折町内、新潟県村上市 ・取組の目的: 屋号や黒塀等の設置によるまち並みの魅力向上
		実際の取組内容及びその結果 ・実施内容: 屋号や標柱、黒塀の設置によるまちづくり事例調査等 ・実施時期: 平成20年8月～平成21年3月 ・実施場所: 桑折町内、新潟県村上市 ・取組の結果: 町商工会の地産地消委員会が協賛することとなり、デザイン案をもとに試作品を製作いただいた。試作品に対して、意向調査を行い、大型模型屋号や大和塀タイプが好ましいとされた。11月11日(火)には、新潟県村上市へ黒塀設置のための先進地事例調査を行い、次年度に向けて黒塀の試作品づくりの参考となった。
(6)実施した取組の内容	取組⑦	街なかイメージ調査
	実施主体	主担当: 桑折町
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画 ・実施内容: 街なかのイメージ調査の比較検討 ・実施時期: 平成20年8月～平成21年2月 ・実施場所: 桑折町内全域 ・取組の目的: 今回の取り組みの効果測定と評価
		実際の取組内容及びその結果 ・実施内容: 町民に対する元気再生事業の取組評価及び街なかのイメージ調査 ・実施時期: 平成20年8月～平成21年3月 (第1回12月、第2回2月) ・実施場所: 桑折町全域のうち900世帯(全世帯の20%)を対象に実施(回収率30%) ・取組の結果: 第1回調査結果では、306票のうち、54%が再生事業の取組を認知、今後の取組に期待する人は56%に上り、期待していないとする18%を大きく上回った。また、主要地点の認識率では、JR桑折駅を筆頭に、以下旧伊達郡役所、追分、駅前交差点、昭和大桥、桑折御蔵、カフェ図書の順に町民の認識率が高いことが確認された。
(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	
	<ul style="list-style-type: none"> ・桑折宿軽トラ市実行委員会(主担当: 取組①) ・三元自転車復元プロジェクトチーム(主担当: 取組②) ・東北大学 仙台都市デザイン研究会(主担当: 取組③④) ・桑折町(主担当: 取組⑤⑥⑦) 	取組の実施を踏まえた反省点 ・取組①天候に左右されたが、イベント開催により徐々にリピーターが増え始め、賑わい創出の効果が現れてきた。 ・取組②三元自転車の形態が複雑で図面化には多大な困難があることが判明したが、日本大学理工学部機械工学科の支援を受け図面化することができた。 ・取組③④カフェ図書の食器製作やスポットコンテスト投票カンバス製作を地元小学生などと協働して実施し、参加意識を高めた。当初予定していた空店舗が借りられず、仮設店舗での営業となったが、今後は平日オープンが課題。 ・取組⑤街道サミットは羽州街道沿線32自治体のうち14自治体の参加となった。多くの自治体の参加を得るためには年度当初からの開催準備と継続開催方法の検討が必要である。 ・取組⑥地産地消委員会の参加や村上市視察により、屋号や黒塀等設置に向けた取り組み気運が高まった。 ・取組⑦取組経過の評価についても実施することとなり、第1回を12月に変更実施した。
(8)取組により得られた成果	○成果1→	地域間交流の場・新たなコミュニティの場の形成により、にぎわいや活気を創出する
		H19 591人 (10月)(桑折御蔵の来場者)
		H20(当初予定していた目標) 目標1000人、結果578人 (10月)(桑折御蔵の来場者)
		H20(実際に得られた成果) ・各種取組がマスコミ等で取り上げられる機会も増え、年間で見ると桑折御蔵は町外からの来場者数が増加(昨年1,286人、今年2,209人、923人増)、旧伊達郡役所(国指定重要文化財)の来場者数も増加(昨年2,479人、今年3,638人、1,159人増)した。また地方の元気再生事業の取組視察のため、奈良県議会、栃木県益子町議会をはじめ、他県市町村担当者等の遠方からの視察者も増え、取組の効果も現れた。9月までは順調に来場者が増えていたが、10月に入り原油高騰によりガソリン値段が上がって、車での来場者が極端に減少したことが一番の要因である。またカフェ図書は、ワークショップの実施等、桑折町にはこれまでなかった新たなコミュニティ空間としての利用がなされている。街なかアンケートにおいても元気再生事業に期待する理由のトップが「桑折町を他の地域にアピールできるから(23%)」「まちが賑わうから(22%)」と上位を占める結果となり、事業の目的と町民意見がほぼ一致していることが分かった。
	○成果2→	街なかに関する関心を高める取組により、街なかの集客力、ブランド力の向上を図るとともに、地域の誇りを育み、アイデンティティの顕在化を図る
		H19 データなし
	H20(当初予定していた目標) 良いと思う人の割合 70% (アンケート調査)	
	H20(実際に得られた成果) ・桑折宿軽トラ市、カフェ図書は、JR桑折駅前の中心部に位置する福島蚕糸跡地で実施されていることから、多くの来訪者を町の中心部に引き得た。街なかアンケート調査においても軽トラ市の期待度は46%、今後買い物をしたいという人は54%に上った。またカフェ図書の期待度は48%、今後行ってみたいという人は55%に上った。町広報誌で10月号から4ヶ月連続、地方の元気再生事業の特集記事(10月号は地方の元気再生事業の取組、11月号は羽州街道サミット、12月号は三元自転車物語、1月号はカフェ図書)を掲載しているため、2月の街なかアンケート調査では、元気再生事業の期待度は高くなると考えられる。お気に入りスポットコンテストにおいては、お気に入りの場所を示す地点を写した写真の投稿(96点)と場所に対する投票という過程を踏むことで、町民の街なかに関する関心度を高め、桑折町の個性を町民自らが考える機会となった。	

<p>(9) 今年度の取組 成果や活動を踏ま えた反省点、改善 点</p>	<p>取組①は今後多くの来場者を増やすために会場を各商店街を回しての開催や会場内でのイベント開催やフリーマーケット等との同時開催、継続的な開催に向けての組織づくりの課題が残った。取組②は三元自転車の形態が複雑で図面化には多大な困難があることが判明。実際この設計図をもとに試作品が作れるか試作品を作ってみないと設計図の評価ができない。取組③④はカフェ図書やスポットコンテスト会場は、当初予定していた空店舗が借りられず、仮設店舗での営業となったのが残念であった。また週末限定開催のため、平日開催等の継続的な開催への組織づくり課題であり、また住民に親しみやすい店舗名も課題となった。取組⑤は年度当初からの準備と多くの自治体に参加を呼びかけると共に、継続開催のため組織づくりが必要である。取組⑥は屋号や黒塀等による設置に向けたまちづくり協定に向けての協議や試作品を作るための仕組みづくりと、景観に取組む町民の意識向上が課題である。</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p>
<p>(10) 平成21年度以 降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p>
	<p>・桑折宿軽トラ市の開催</p>	<p>・取組：桑折宿軽トラ市の発展実験（実施主体：桑折宿軽トラ市実行委員会） ・アンケート回答者の半数以上が買い物をしたいと回答いただき、多くの来場者を増やすため、会場を町内の各商店街を回して開催し、会場内でのイベント開催やフリーマーケット等との同時開催を行う。そして継続的な開催に向けての組織づくりを行う。 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額300万円）]</p>
	<p>・現存日本最古「三元自転車」の社会実験</p>	<p>・取組：三元自転車の復元調査（実施主体：三元自転車復元プロジェクトチーム） ・日本大学理工学部の協力をいただき設計図を作製したが、実際にこの設計図をもとに試作品が作れるか、試作品を作ってみないと設計図の評価ができない。そのため設計図の改良も考慮しながら、試作品を製作する取組を進め、設計図の評価を行う取組をする。 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額400万円）]</p>
	<p>・カフェ図書の営業開始</p>	<p>・取組：桑折茶屋「徳江屋」の実験（実施主体：東北大学 仙台都市デザイン研究会） ・3000冊の図書を得、アンケート回答者の半数以上が訪れたいと回答したカフェ図書は、より宿場町桑折にふさわしい「桑折茶屋」とし会場を変更して、平日開催に向けて地域住民を主体の運営組織づくりの構築を行う。また、新たなメニューづくりや産地直結で安全安心な食品提供・PRを行う。また、町民の意識面空間面の核となるように各プロジェクトの情報発信機能を持たせた実施を行う。 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額500万円）]</p>
	<p>・お気に入りスポットコンテストの開催</p>	<p>・実施主体：東北大学 仙台都市デザイン研究会 ・町民によって、お気に入りスポットが選ばれ、目に見える形でその成果を示し得たことから、今年度で終了する。</p>
	<p>・「羽州街道サミット」の開催</p>	<p>・取組：「羽州街道サミット」の継続開催に向けた仕組みの検討（実施主体：羽州街道サミット実行委員会） ・参加自治体による継続開催が確認されたが、参加されなかった自治体への呼びかけ、継続的な開催に向けての組織づくりや運営方法の仕組みづくり構築のための検討を行い、平成22年度以降に他地域での継続開催に向けてのプログラムを作成する。 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額300万円）]</p>
	<p>・屋号、黒塀、標柱設置によるまちづくり調査</p>	<p>・取組：屋号、黒塀、標柱の試験設置と設置促進のための仕組みの検討（実施主体：桑折地区歩いて楽しめる地域づくり懇談会） ・屋号や黒塀等による設置に向けたまちづくり協定に向けての検討協議、そして協定案を踏まえた具体のデザイン検討と試作品の製作等実現化に向けた仕組みづくりの検討を行う。黒塀等については実験的な設置を行い、景観評価を行う。 [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額400万円）]</p>
<p>・街なかイメージ調査</p>	<p>・取組：まちづくり効果測定調査（実施主体：桑折地区歩いて楽しめる地域づくり懇談会） ・事業の効果及びまち中で大切にすべき資源、エリアに関する住民意識調査を実施する [活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望（想定金額200万円）]</p>	

街道を活かした桑折のまちづくり実践調査(福島県桑折町)

— 桑折地区歩いて楽しめる地域づくり懇談会 —

平成20年度 地方の元気再生事業
事業実施調査 参考資料

◇主な実施取組の内容

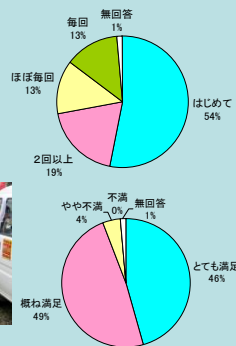
○実施取組内容

桑折町の取組は、平成20年3月に開催した「街道を活かしたまちづくりフォーラム」で町民投票によって選ばれたものを中心に展開した7つの取組である。自然・歴史・文化など桑折町固有の地域資源の魅力を全町民が再認識し(取組②④)、宿場町としての由緒ある町並みを保存・再生しながら(⑥)、新たな賑わいとコミュニティの核の再構築を図り(③)、郊外農村部や他地域との交流を進め(①⑤)、それらの資源や活動を有機的に結びつけることによって、『歩いて楽しめる賑わいのあるまちづくりを進める』ことが桑折再生のシナリオであり、その第一歩を記し得た。

①『桑折宿軽トラ市』の実証実験

実施主体: 桑折宿軽トラ市実行委員会

来場者には、リピーターが確認されている。また、来場者の満足度は、とても満足46%、概ね満足49%であり、その満足度はきわめて高い。(11月調査)



軽トラ市開催状況

② 現存日本最古『三元自転車』の復元調査

実施主体: 三元自転車復元プロジェクトチーム

日本大学理工学部の協力を得て、鍛造による複雑な形状の復元図面を製作し、写真をパネル化。町民の関心が向上した。



調査状況と復元図

④ お気に入りスポットコンテストの開催

実施主体: 東北大学
仙台都市デザイン研究会

桑折町のお気に入りスポットを投稿してもらい、その後街道祭りで町民による投票を実施した。その結果、以下のお気に入りスポットが選ばれたとともに、町民の地域への理解が深まった。

1. 半田山
2. 桑折駅
3. 無能寺
4. 旧伊達郡役所
5. カフェ図書、陣屋の社
6. 追分 等



スポット投票風景

⑥ 屋号、標柱、黒塀設置等によるまちづくり調査

実施主体: 桑折町

地域の地産地消委員会が協賛することになり、デザイン案をもとに試作品を製作。試作品について、意向調査を行い、大型横型屋号や大和塀タイプが好ましいとされた。



住民により好ましいとされた屋号と黒塀

③『カフェ図書』の実証実験

実施主体: 東北大学
仙台都市デザイン研究会

東北大学の学生が実施。カップづくりなど、カフェ図書の製作過程を地元小学生と協働して実施した。図書は3000冊余が寄贈された。目的としていた地域の新たなコミュニティスペースとして定着しつつある。



カフェ図書利用状況とカップづくりワークショップ

⑤ 羽州街道サミットの開催

実施主体: 桑折町

沿線32自治体のうち14自治体、町内外から約250名の参加を得て10月18日に開催した。街道交流の必要性が語られ、今後の継続開催が確認された。また、サミット翌日には、桑折街なかや奥州街道・羽州街道追分、小坂峠等を巡る羽州街道探訪会が実施され、街道のすばらしさを実感した。

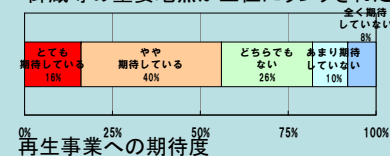


探訪会風景: 追分 街道サミット開催風景

⑦ 街なかイメージ調査

実施主体: 桑折町

元気再生事業の取組評価とまち中に対するイメージ調査(地点識別調査)を実施。約半数が再生事業の取組を認知、今後の取組に期待する人は約6割に上った。また、主要地点の認識率は、桑折駅を筆頭に、旧伊達郡役所、追分、駅前交差点、御蔵等の重要地点が上位にランクされた。



◆取組実施による成果・今後の課題

・地方の元気再生事業による取組は、桑折町のまちづくりの胎動を示すものとして、町外からも注目を浴びつつあり、他県からの視察者をはじめとする町外からの来訪者増加にその効果のみてとることができる。しかし、現在の活動は、町全体から見れば、まだごく少数の有志諸氏の活動に留まっている。今後は現在の取組に参加している方々の気をさらに高めるとともに、活動予備軍の人たちをその気にさせていくために、より大きな効果を上げるべく活動を継続発展させる必要に迫られている。

・そのためには、今年度の成果をもとに活動を継続発展させ、屋号・黒塀の試作展示などによって、一般の方々に目に見えるかたちで各取組の成果を示すこと、軽トラ市やカフェ図書などは新たな形態での発展継続的実験を行い、日本風景街道とのタイアップなど、各取組間やプロジェクト間の相互連携強化を図っていくことが重要と考えている。